

注3

大学番号：私183

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

名古屋学芸大学 看護学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人中西学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 看護学部 教務支援室

職名・氏名 主任 水谷 麻容子

電話番号 052-954-1222

（夜間） 052-954-1222

F A X 052-954-1225

e-mail gakuikg-m1@nuas.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人中西学園

(2) 大学名

名古屋学芸大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒460-0001

(〒470-0196)

愛知県名古屋市中区三の丸4丁目1番1号 (愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナカニシ カツヒコ) 中西 克彦 (平成12年4月)		
学長	(スギウラ ヤスオ) 杉浦 康夫 (平成28年10月)		
学部長	(イカリ アキラ) 五十里 明 (平成30年4月)		
学科長等	(アサノ タエコ) 浅野 妙子 (平成30年4月)	(アサノ タエコ) 浅野 妙子 (平成30年4月)	新設学科の状況を考慮し二人学科長体制とし自己点検評価等担当とした。 平成30年4月変更(30)
		(キンジョウ ヤスコ) 金城 やす子 (平成30年4月)	新設学科の状況を考慮し、学科長としての職務のうち教務担当として新たに発令した。 平成30年4月変更(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4 年	100 人	年次 人	400 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100 () [-]	— () [-]	100 () [-]	— () [-]	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	1.06倍	— 倍	
志願者数	3902 () [-]	— () [-]	2470 () [-]	— () [-]	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []			
受験者数	3558 () [-]	— () [-]	2239 () [-]	— () [-]	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []			
合格者数	200 () [-]	— () [-]	282 () [-]	— () [-]	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []			
B 入学者数	106 () [-]	— () [-]	106 () [-]	— () [-]	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []			
入学定員超過率 B/A	1.06		1.06										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	106 [-] (-)	— [-] (-)	106 [-] (-)	— [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
2年次	/		105 [-] (-)	— [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
3年次			/		/		[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()
4年次	/						/		/		[] [] ()
計			106 [-] (-)	211 [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()					[] [] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	106 人	1 人	平成30年度	1 人	— 人	本人の就職志向変更に伴う就学意欲の低下(1名)
令和元年度	211 人	0 人	平成30年度	0 人	— 人	
			令和元年度	0 人	— 人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度			
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合 計		1 人		1 人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{106} = \boxed{0.94} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{211} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	看護の基礎	1前	2			2						
	看護の理解	2後	2			1						
	英語コミュニケーションA	1前	1								2	
	英語コミュニケーションB	1後	1								2	
	英語論文講読A	2後		1							2	
	英語論文講読B	2後		1							2	
	臨床看護英語A	2前		1							2	
	臨床看護英語B	2前		1							2	
	哲学へのいざない	1前	2									1
	心の科学	1後	2									1
	人間と教育	1前	2									1
	日本の歴史	1後	2									1
	医学の歴史	1前	2									1
	英米の文学	1後	2									1
	法と社会	1前	2									1
	社会と福祉	1後	2			1						
	世界の動き	1前	2									1
	生命の科学	1後	2									1
	性差の科学	1前	2			1						
	人間と地球環境	1後	2									1
	音楽の世界	1前	2									1
	映画の世界	1後	2									1
	演劇の世界	1前	2									1
	スポーツと健康1(ジャズダンス)	1前	1									1
	スポーツと健康2(ヨガ)	1後	1									1
	食と健康	1後	2									1
	情報リテラシー実習	1後	1									1
	表計算実習	1前	1									1
	プレゼンテーション実習	1後	1									1
	ボランティア演習	1後	2									1
	コミュニケーション論	1前	2									1
	倫理と看護	1前	2									1
	中国語 I	3前	1									1
	中国語 II	3前	1									1
	フランス語 I	3前	1									1
	フランス語 II	3前	1									1
	ポルトガル語 I	3前	1									1
	ポルトガル語 II	3前	1									1
	日本語表現 I	3前	1									1
	日本語表現 II	3前	1									1
小計(40科目)			6	55	0	5	0	0	0	0	24	
専門基礎科目	専門基礎入門1(看護と生物)	1前	1									1
	専門基礎入門2(看護と化学)	1前	1									1
	専門基礎入門3(看護と物理)	1後	1									1
	専門基礎入門4(看護と統計)	1後	1									1
	臨床心理学	2前	1									1
	カウンセリング理論と技法	2前	1									1
	看護と心理	2後	1									1
	パーソナリティ心理学	2後	1									1
	解剖生理学1	1前	2									1
	解剖生理学2	1前	2									1
	栄養代謝学	1前	2									1
	病理学	1前	1									1
	診断治療学概論	1前	1									1
	病態治療学1	1後	2									1
	病態治療学2	1後	2									1
	病態治療学3	1後	2									1
	病態治療学4	1後	2									1
	病態治療学5	1後	2									1
	薬理学	2前	1									1
	微生物学	2前	1									1
	関係法規	4前	2									1
	公衆衛生学	2後	2									1
	医療概論	2前	1			1						
	社会保障制度	2後	1									1
小計(24科目)			26	8	0	1	0	0	0	0	20	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	看護の基礎	1前	2			2						
	看護の理解	2後	2			1						
	英語コミュニケーションA	1前	1								2	
	英語コミュニケーションB	1後	1								2	
	英語論文講読A	2後		1							2	
	英語論文講読B	2後		1							2	
	臨床看護英語A	2前		1							2	
	臨床看護英語B	2前		1							2	
	哲学へのいざない	1前	2									1
	心の科学	1後	2									1
	人間と教育	1前	2									1
	日本の歴史	1後	2									1
	医学の歴史	1前	2									1
	英米の文学	1後	2									1
	法と社会	1前	2									1
	社会と福祉	1後	2			1						
	世界の動き	1前	2									1
	生命の科学	1後	2									1
	性差の科学	1前	2			1						
	人間と地球環境	1後	2									1
	音楽の世界	1前	2									1
	映画の世界	1後	2									1
	演劇の世界	1前	2									1
	スポーツと健康1(ジャズダンス)	1前	1									1
	スポーツと健康2(ヨガ)	1後	1									1
	食と健康	1後	2									1
	情報リテラシー実習	1前	1									1
	表計算実習	1後	1									1
	プレゼンテーション実習	1後	1									1
	ボランティア演習	1後	2									1
	コミュニケーション論	1前	2					1				1
	倫理と看護	1後	2									1
	中国語 I	3前	1									1
	中国語 II	3前	1									1
	フランス語 I	3前	1									1
	フランス語 II	3前	1									1
	ポルトガル語 I	3前	1									1
	ポルトガル語 II	3前	1									1
	日本語表現 I	3前	1									1
	日本語表現 II	3前	1									1
小計(40科目)			6	55	0	6	0	0	0	0	23	
専門基礎科目	専門基礎入門1(看護と生物)	1前	1									1
	専門基礎入門2(看護と化学)	1前	1									1
	専門基礎入門3(看護と物理)	1後	1									1
	専門基礎入門4(看護と統計)	1後	1									1
	臨床心理学	2前	1									1
	カウンセリング理論と技法	2前	1									1
	看護と心理	2後	1					1				1
	パーソナリティ心理学	2後	1									1
	解剖生理学1	1前	2									1
	解剖生理学2	1前	2									1
	栄養代謝学	1前	2									1
	病理学	1前	1									1
	診断治療学概論	1前	1									1
	病態治療学1	1後	2									1
	病態治療学2	1後	2									1
	病態治療学3	1後	2									1
	病態治療学4	1後	2									1
	病態治療学5	1後	2									1
	薬理学	2前	1									1
	微生物学	2前	1									1
	関係法規	4前	2									1
	公衆衛生学	2後	2									1
	医療概論	2前	1			1						
	社会保障制度	2後	1									1
小計(24科目)			26	8	0	2	0	0	0	0	19	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎看護学分野	看護学概論	1前	2			2							
	基礎看護学技術論1	1前	2			2		1	3				
	基礎看護学技術論2	1前	1			1		2	3				
	基礎看護学技術論3	1後	1			2		1	3				
	基礎看護学技術論4	2前	1			2		1	3				
	基礎看護学技術論5	2後	1			1		2	3				
	ヘルスアセスメント	2後	1			2		2	3				
	看護の展開	2前	1			2		2	3				
	基礎看護学実習1	1前	1			4	1	3	6	3			
	基礎看護学実習2	2後	2			4	1	3	6	3			
	成人看護学分野	成人看護学概論	1後	1			2	1					
		成人保健活動論	2前	1			2	1					
成人看護学実践論1		2後	1			2	1		2				
成人看護学実践論2		3前	1			2	1		2				
成人看護学実践論3		3前	1			2	1		2				
成人看護学実践論4		3前	1			2	1		2				
成人看護学実習1		3後	2			2	1		2	2			
成人看護学実習2		3後	2			2	1		2	2			
成人看護学実習3		3後	2			2	1		2	2			
老年看護学分野	老年看護学概論	1後	1			2							
	老年保健活動論	2前	1			2							
	老年看護学実践論1	2後	1			1		1					
	老年看護学実践論2	3前	1			1		1					
	老年看護学実習1	2前	2			1		1		2			
	老年看護学実習2	3後	2			1		1		2			
小児看護学分野	小児看護学概論	2前	1			1	1						
	小児看護学実践論1	2前	1			1	1						
	小児看護学実践論2	2後	1			1	1						
	小児看護学実践論3	3前	1			1	1						
母性看護学分野	小児看護学実習	3後	2			1	1			2			
	母性看護学概論	2前	1			2			1				
	母性看護学実践論1	2前	1			1			2				
	母性看護学実践論2	2後	1			1			2				
	母性看護学実践論3	3前	1			2			2				
精神看護学分野	母性看護学実習	3後	2			1			2	2			
	精神看護学概論	2前	1			1	1						
	精神看護学実践論1	2前	1			1	1						
	精神看護学実践論2	2後	1			1	1						
	精神看護学実践論3	3前	1			1	1						
地域看護学分野	精神看護学実習	3後	2			1	1			2			
	地域看護学概論	2後	1			1	1						
	地域看護学方法論	2後	1			2	1						
	在宅看護学概論	3前	1			1	2						
	在宅看護学実践論	3前	1			1	2						
統合分野	在宅看護学実習	3後	2			1	2			2			
	小計(45科目)	—	57	0	0	10	5	3	7	10	0		
	医療安全	4前	1			1	1						
	看護管理	4前	1				1	1					
	災害看護	2後	1					1	1				
	統合看護技術論	4前	1			1		2	1				
	統合実習1	2前	1			1	2	1		2			
	統合実習2	2後	1			3	2	1	1	2			
	統合実習3	4前	2			5	4	1	2	2			
	国際看護学	4前	1				1	2					
	国際看護学演習	4前	1				1	2					
	キャリアデザイン	4後	1								1		
	海外の医療と文化(海外研修)	2前		2								1	
看護研究1	3前	1			11	5	4	6					
看護研究2	4通	4			11	5	4	6					
小計(13科目)	—	16	2	0	11	5	4	6			1		
合計(122科目)	—	105	65	0	11	5	4	7	10	42			

卒業要件及び履修方法

必修科目105単位、教養科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上を修得し、127単位以上修得すること。
(履修科目の登録の条件:50単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎看護学分野	看護学概論	1前	2			2							
	基礎看護学技術論1	1前	2			2		2	4				
	基礎看護学技術論2	1後	1			1		3	3				
	基礎看護学技術論3	1後	1			2		2	3				
	基礎看護学技術論4	2前	1			2		2	4				
	基礎看護学技術論5	2後	1			1		2	3				
	ヘルスアセスメント	2後	1			2		2	4				
	看護の展開	2前	1			2		2	3				
	基礎看護学実習1	1前	1			5	1	4	6	3			
	基礎看護学実習2	2後	2			4	1	4	6	3			
	成人看護学分野	成人看護学概論	1後	1			2	1					
		成人保健活動論	2前	1			2	1					
成人看護学実践論1		2後	1			2	1	1	2				
成人看護学実践論2		3前	1			2	1	1	2				
成人看護学実践論3		3前	1			2	1	1	2				
成人看護学実践論4		3前	1			2	1	1	2				
成人看護学実習1		3後	2			2	1	1	2	2			
成人看護学実習2		3後	2			2	1	1	2	2			
成人看護学実習3		3後	2			2	1	1	2	2			
老年看護学分野	老年看護学概論	1後	1			2							
	老年保健活動論	2前	1			2							
	老年看護学実践論1	2後	1			1		1	1				
	老年看護学実践論2	3前	1			1		1	1				
	老年看護学実習1	2前	2			1		1	1	2			
	老年看護学実習2	3後	2			1		1	1	2			
小児看護学分野	小児看護学概論	2前	1			1	1						
	小児看護学実践論1	2前	1			1	1						
	小児看護学実践論2	2後	1			1	1						
	小児看護学実践論3	3前	1			1	1						
母性看護学分野	小児看護学実習	3後	2			1	1			2			
	母性看護学概論	2前	1			2			1				
	母性看護学実践論1	2前	1			1			2				
	母性看護学実践論2	2後	1			1			2				
	母性看護学実践論3	3前	1			2			2				
精神看護学分野	母性看護学実習	3後	2			1			2	2			
	精神看護学概論	2前	1			2	1						
	精神看護学実践論1	2前	1			2	1						
	精神看護学実践論2	2後	1			2	1						
	精神看護学実践論3	3前	1			2	1						
地域看護学分野	精神看護学実習	3後	2			2	1			2			
	地域看護学概論	2後	1			1	1						
	地域看護学方法論	2後	1			2	1						
	在宅看護学概論	3前	1			1	2						
	在宅看護学実践論	3前	1			1	2						
統合分野	在宅看護学実習	3後	2			1	2			2			
	小計(45科目)	—	57	0	0	11	4	4	7	10	0		
	医療安全	4前	1			1	1						
	看護管理	4前	1				1	1					
	災害看護	2後	1					1	1				
	統合看護技術論	4前	1			1		2	1				
	統合実習1	2前	1			1	2	1		2			
	統合実習2	2後	1			4	1	1	1	2			
	統合実習3	4前	2			6	3	1	3	2			
	国際看護学	4前	1				1	2					
	国際看護学演習	4前	1				1	2					
	キャリアデザイン	4後	1								1		
	海外の医療と文化(海外研修)	2前		2								1	
看護研究1	3前	1			12	4	5	7					
看護研究2	4通	4			12	4	5	7					
小計(13科目)	—	16	2	0	12	4	5	7			2		
合計(122科目)	—	105	65	0	12	4	5	7	10	40			

卒業要件及び履修方法

必修科目105単位、教養科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上を修得し、127単位以上修得すること。
(履修科目の登録の条件:50単位(年間))

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	看護の基礎	1前	2			2							
	看護の理解	2後	2			1							
	英語の世界	1前	1									2	
	英語コミュニケーションA	1前	1									2	
	英語コミュニケーションB	1後	1									2	
	英語論文講読A	2後		1								2	
	英語論文講読B	2後		1								2	
	臨床看護英語A	2前		1								2	
	臨床看護英語B	2前		1								2	
	探究の	哲学へのいざない	1前		2								1
	人間の	心の科学	1後		2								1
	文化	人間と教育	1前		2								1
	歴史と	日本の歴史	1後		2								1
	文化	医学の歴史	1前		2								1
	社会と	英米の文学	1後		2								1
	し社会の	法と社会	1前		2								1
	く社会の	社会と福祉	1後		2		1						1
	いざない	世界の動き	1前		2								1
	自然科学	生命の科学	1後		2								1
	いざない	性差の科学	1前		2		1						1
	いざない	人間と地球環境	1後		2								1
	芸術	音楽の世界	1前		2								1
	芸術	映画の世界	1後		2								1
	芸術	演劇の世界	1前		2								1
	ウエル	スポーツと健康1(ジャズダンス)	1前		1								1
	ウエル	スポーツと健康2(ヨガ)	1後		1								1
	ウエル	食と健康	1後		2								1
	技術	情報リテラシー実習	1後		1								1
	技術	表計算実習	1前		1								1
	技術	プレゼンテーション実習	1後		1								1
	探究	ボランティア演習	1後		2								1
	探究	コミュニケーション論	1前		2								1
	探究	倫理と看護	1前		2								1
	世界の言語	中国語 I	3前		1								1
	世界の言語	中国語 II	3前		1								1
	世界の言語	フランス語 I	3前		1								1
	世界の言語	フランス語 II	3前		1								1
	世界の言語	ポルトガル語 I	3前		1								1
	世界の言語	ポルトガル語 II	3前		1								1
	世界の言語	日本語表現 I	3前		1								1
世界の言語	日本語表現 II	3前		1								1	
	小計(40科目)	—	6	55	0	5	0	0	0	0	0	24	
専門基礎科目	専門基礎	専門基礎入門1(看護と生物)	1前		1								1
	専門基礎	専門基礎入門2(看護と化学)	1前		1								1
	専門基礎	専門基礎入門3(看護と物理)	1後		1								1
	専門基礎	専門基礎入門4(看護と統計)	1後		1								1
	心の理解	臨床心理学	2前		1								1
	心の理解	カウンセリング理論と技法	2前		1								1
	心の理解	看護と心理	2後		1								1
	心の理解	パーソナリティ心理学	2後		1								1
	機能	解剖生理学1	1前		2								1
	機能	解剖生理学2	1前		2								1
	機能	栄養代謝学	1前		2								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1前		1								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	診断治療学概論	1前		1								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学1	1後		2								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学2	1後		2								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学3	1後		2								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学4	1後		2								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学5	1後		2								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	2前		1								1
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	2前		1								1
社会保健と	関係法規	4前		2								1	
社会保健と	公衆衛生学	2後		2								1	
社会保健と	医療概論	2前		1		1						1	
社会保健と	社会保障制度	2後		1								1	
	小計(24科目)	—	26	8	0	1	0	0	0	0	0	20	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎看護学分野	看護学概論	1前	2			2							
	基礎看護学技術論1	1前	2			2		1	3				
	基礎看護学技術論2	1前	1			1		2	3				
	基礎看護学技術論3	1後	1			2		1	3				
	基礎看護学技術論4	2前	1			2		1	3				
	基礎看護学技術論5	2後	1			1		2	3				
	ヘルスアセスメント	2後	1			2		2	3				
	看護の展開	2前	1			2		2	3				
	基礎看護学実習1	1前	1			4	1	3	6	3			
	基礎看護学実習2	2後	2			4	1	3	6	3			
	成人看護学分野	成人看護学概論	1後	1			2	1					
		成人保健活動論	2前	1			2	1					
成人看護学実践論1		2後	1			2	1		2				
成人看護学実践論2		3前	1			2	1		2				
成人看護学実践論3		3前	1			2	1		2				
成人看護学実践論4		3前	1			2	1		2				
成人看護学実習1		3後	2			2	1		2	2			
成人看護学実習2		3後	2			2	1		2	2			
成人看護学実習3		3後	2			2	1		2	2			
老年看護学分野	老年看護学概論	1後	1			2							
	老年保健活動論	2前	1			2							
	老年看護学実践論1	2後	1			1		1					
	老年看護学実践論2	3前	1			1		1					
	老年看護学実習1	2前	2			1		1		2			
	老年看護学実習2	3後	2			1		1		2			
小児看護学分野	小児看護学概論	2前	1			1	1						
	小児看護学実践論1	2前	1			1	1						
	小児看護学実践論2	2後	1			1	1						
	小児看護学実践論3	3前	1			1	1						
	小児看護学実習	3後	2			1	1			2			
母性看護学分野	母性看護学概論	2前	1			2			1				
	母性看護学実践論1	2前	1			1			2				
	母性看護学実践論2	2後	1			1			2				
	母性看護学実践論3	3前	1			2			2				
	母性看護学実習	3後	2			1			2	2			
精神看護学分野	精神看護学概論	2前	1			1	1						
	精神看護学実践論1	2前	1			1	1						
	精神看護学実践論2	2後	1			1	1						
	精神看護学実践論3	3前	1			1	1						
	精神看護学実習	3後	2			1	1			2			
地域看護学分野	地域看護学概論	2後	1			1	1						
	地域看護学方法論	2後	1			2	1						
	在宅看護学概論	3前	1			1	2						
	在宅看護学実践論	3前	1			1	2						
	在宅看護学実習	3後	2			1	2			2			
小計(45科目)			—	57	0	0	10	5	3	7	10	0	
統合分野	医療安全	4前	1			1	1						
	看護管理	4前	1				1	1					
	災害看護	2後	1					1	1				
	統合看護技術論	4前	1			1		2	1				
	統合実習1	2前	1			1	2	1		2			
	統合実習2	2後	1			3	2	1	1	2			
	統合実習3	4前	2			5	4	1	2	2			
	国際看護学	4前	1				1	2					
	国際看護学演習	4前	1				1	2					
	キャリアデザイン	4後	1								1		
海外の医療と文化(海外研修)	2前		2								1		
研究	看護研究1	3前	1			11	5	4	6				
看護研究2	4通	4				11	5	4	6				
小計(13科目)			—	16	2	0	11	5	4	6		1	
合計(122科目)			—	105	65	0	11	5	4	7	10	42	
卒業要件及び履修方法													
必修科目105単位、教養科目の選択科目から18単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上を修得し、127単位以上修得すること。 (履修科目の登録の条件:50単位(年間))													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・該当なし

【令和元年度】

・教育効果考慮の理由により、「情報リテラシー実習」の開講時期を「1年後期」から「1年前期」へ、「表計算実習」の開講期を「1年前期」から「1年後期」へ、「倫理と看護」の開講時期を「1年前期」から「1年後期」へ、「基礎看護技術論2」の開講期を「1年前期」から「1年後期」へ、「ヘルスアセスメント」の開講期を「2年後期」から「2年前期」へ、「看護の展開」の開講期を「2年前期」から「2年後期」へ変更。
 ・時間割編成上の都合により、「コミュニケーション論」「看護と心理」の兼任・兼任配置を専任教員に変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・専任教員の新規採用の理由により、「基礎看護学技術論1」「基礎看護学技術論4」の専任教員配置を「助教3」から「助教4」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・担当科目の追加の理由により、「基礎看護学技術論1」「基礎看護学技術論3」「基礎看護学技術論4」の専任教員配置を「講師1」から「講師2」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・担当科目の追加の理由により、「基礎看護学技術論2」の専任教員配置を「講師2」から「講師3」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・専任教員の新規採用の理由により、「ヘルスアセスメント」の専任教員配置を「助教3」から「助教4」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・職位の変更の理由により、「基礎看護学実習1」の専任教員配置を「講師3」から「講師4」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・担当科目の追加の理由により、「基礎看護学実習1」の専任教員配置を「教授4」から「教授5」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・職位変更の理由により、「成人看護学実践論1」「成人看護学実践論2」「成人看護学実践論3」「成人看護学実践論4」「成人看護学実習1」「成人看護学実習2」「成人看護学実習3」の専任教員配置を「講師0」から「講師1」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・担当科目の追加の理由により、「老年看護学実践論1」「老年看護学実践論2」「老年看護学実習1」「老年看護学実習2」の専任教員配置を「助教0」から「助教1」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・職位の変更の理由により、「精神看護学概論」「精神看護学実践論1」「精神看護学実践論2」「精神看護学実践論3」「精神看護学実習」の専任教員配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授0」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・職位の変更の理由により、「統合実習2」の専任教員配置を、「教授3」「准教授2」から「教授4」「准教授1」へ、「統合実習3」の専任教員配置を、「教授5」「准教授4」から「教授6」「准教授3」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・専任教員の新規採用の理由により、「統合実習3」の専任教員配置を「助教2」から「助教3」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・専任教員の新規採用の理由により、「看護研究1」「看護研究2」の専任教員配置を「助教6」から「助教7」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・科目の追加の理由により、「看護研究1」「看護研究2」の専任教員配置を「講師4」から「講師5」へ変更。平成30年12月AC教員審査済み。
 ・職位変更の理由により、「看護研究1」「看護研究2」の専任教員配置を「教授11」「准教授5」から「教授12」「准教授4」へ変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	45 科目	0 科目	122 科目	77 科目	45 科目	0 科目	122 科目	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{122} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋外国語大学 43,960㎡ (必要面積40,000㎡)と共用 借用面積：2,150㎡ 借用期間：20年 借用面積：2,150㎡ 借用期間：30年 H30.10.31 校地変更届出済み(元)		
	校舎敷地	2,150 ㎡	84,686.36 ㎡	0 ㎡	86,836.36 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	61,718.00 ㎡	0 ㎡	61,718.00 ㎡			
	小 計	2,150 ㎡	146,404.36 ㎡	0 ㎡	148,554.36 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	6,741.00 ㎡ 2,958.00 ㎡	0 ㎡	6,741.00 ㎡ 2,958.00 ㎡			
	合 計	2,150 ㎡	153,145.36 ㎡ 149,362.36 ㎡	0 ㎡	155,295.36 ㎡ 151,512.36 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	名古屋外国語大学 18,674㎡ (必要面積17,517㎡)と共用 借用面積：5,870.40㎡ 借用期間：20年			
	40,718.40 ㎡ (40,718.40㎡)	6,281.71 ㎡ (6,281.71㎡)	32,661.47 ㎡ (32,661.47㎡)	79,661.58 ㎡ (79,661.58㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (補助職員 1 人) (補助職員 0 人)		
	4 1 室	7 7 室	2 0 室	1 3 室	5 室			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			教員採用年次計画に基づき増室(元)		
	看護学部 看護学科		3 1 室 2 9 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学部単位での特定不能なため、大学全体の数 図書、学術雑誌、視聴覚資料は、名古屋外国語大学と共用(一部を除く) 図書・設備環境整備のため、蔵書冊数等の変更(元)
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点	
	看護学部	370,500 [80,200] (332,371 [73,075]) (342,500 [78,400])	14,600 [12,550] 5,010 [2,800] (14,026 [11,651]) (4,997 [2,780])	13,100 [11,500] 3,840 [2,310] (12,776 [11,287]) (3,820 [2,300])	15,500 14,100 (15,290) (13,870)	5,874 (5,374)	85 (70)	
	計	370,500 [80,200] (332,371 [73,075]) (342,500 [78,400])	14,600 [12,550] 5,010 [2,800] (14,026 [11,651]) (4,997 [2,780])	13,100 [11,500] 3,840 [2,310] (12,776 [11,287]) (3,820 [2,300])	15,500 14,100 (15,290) (13,870)	5,874 (5,374)	85 (70)	
(6) 図 書 館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 設備環境整備のため(元)	
	4,750.51 ㎡		732席 700席		450,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	4,179.57 ㎡		テニスコート 6 面 ゴルフ練習場 3 0 打席					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	1,200千円	1,200千円	1,200千円
	共 同 研 究 費 等	800千円	800千円	設備購入費	30,000千円	30,000千円	30,000千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		1,700千円	1,520千円	1,540千円	1,560千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立学校等経常費補助金、資産運用収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学芸大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
栄養科学研究科 栄養科学専攻			-		-		-	平成18	-	
博士前期課程	2	5	-	10	修士 (栄養科学)	0.60	-	平成18	愛知県日進市岩崎 町竹ノ山57番地	
博士後期課程	3	2	-	6	博士 (栄養科学)	1.33	-	平成20	同上	
メディア造形研究科 メディア造形専攻			-		-		-	平成18	-	
修士課程	2	5	-	10	修士 (メディア造形)	0.70	-	平成18	同上	
子どもケア研究科 子どもケア専攻			-		-		-	平成23	-	
修士課程	2	5	-	10	修士 (子ども学)	0.40	-	平成23	同上	
大学の名称	名古屋学芸大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
管理栄養学部	4	160	-	640	-	1.08	-	平成14	-	
管理栄養学科	4	160	-	640	学士 (管理栄養)	1.08	-	平成14	愛知県日進市岩崎 町竹ノ山57番地	
メディア造形学部	4	270	-	1010	-	1.11	-	平成14	-	
映像メディア学科	4	120	-	420	学士 (映像メディア)	1.13	令和元	平成14	同上	定員変更(20)
デザイン学科	4	90	-	330	学士 (デザイン)	1.07	令和元	平成14	同上	定員変更(10)
ファッション造形学科	4	60	-	260	学士 (ファッション 造形)	1.15	-	平成14	同上	定員変更(△10)
ヒューマンケア学部	4	220	-	880	-	1.06	-	平成17	-	
子どもケア学科	4	220	-	880	-	1.06	-	平成17	同上	
子どもケア専攻	4	100	-	400	学士 (子ども学)	1.04	-	平成17	同上	
幼児保育専攻	4	120	-	480	学士 (子ども学)	1.08	-	平成17	同上	
看護学部	4	100	-	400	-	1.06	平成30	平成30	-	
看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.06	平成30	平成30	愛知県名古屋市中区 三の丸4丁目1番1号	
大学全体	4	750	-	2930	-	1.08	-	-	-	

大学の名称	名古屋外国語大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻								平成9		
博士前期課程	2	20	-	40	修士(英語・英語教育)	0.50	-	平成9	愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地	
博士後期課程	3	5	-	15	博士(英語学・英語教育学)	0.46	-	平成11	同上	
大学の名称	名古屋外国語大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍				
外国語学部	4	540	-	1770	-	1.09	-	昭和63	-	
英米語学科	4	400	-	1300	学士(英語)	1.09	令和元	昭和63	愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地	定員変更(100)
英語教育学科	4	-	-	-	学士(英語教育)	-	-	平成20	同上	平成31年学生募集停止
フランス語学科	4	75	-	255	学士(フランス語)	1.06	令和元	昭和63	同上	定員変更(15)
中国語学科	4	65	-	215	学士(中国語)	1.10	令和元	昭和63	同上	定員変更(15)
日本語学科	4	-	-	-	学士(日本語)	-	-	平成11	同上	平成31年学生募集停止
世界教養学科	4	-	-	-	学士(世界教養)	-	-	平成27	同上	平成31年学生募集停止
現代国際学部	4	299	-	1199	-	1.12	-	平成16	-	
グローバルビジネス学科	4	99	-	399	学士(国際経営)	1.12	-	平成16	同上	定員変更(△1)
現代英語学科	4	100	-	400	学士(国際学)	1.13	-	平成16	同上	
国際教養学科	4	100	-	400	学士(国際学)	1.11	-	平成25	同上	
世界共生学部	4	100	-	400	-	1.08	平成29	平成29	-	
世界共生学科	4	100	-	400	学士(世界共生)	1.08	平成29	平成29	同上	
世界教養学部	4	160	-	640	-	1.06	令和元	令和元	-	
世界教養学科	4	100	-	400	学士(世界教養)	1.11	令和元	令和元	同上	
国際日本学科	4	60	-	240	学士(日本語)	1.00	令和元	令和元	同上	
大学全体	4	1099	-	4009	-	1.10	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	講師	野々川 陽子 <平成30年4月> 修士(看護学)	専	講師	野々川 陽子 <平成30年4月> 修士(看護学)	専	講師	野々川 陽子 <平成30年4月> 修士(看護学)			
	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護管理 統合看護技術論 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護管理 統合看護技術論 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護管理 統合看護技術論 看護研究1 看護研究2				
専	講師	神谷 智子 <平成30年4月> 修士(体育学)	専	講師	神谷 智子 <平成30年4月> 修士(体育学)	専	講師	神谷 智子 <平成30年4月> 修士(体育学)			
	基礎看護学技術論2 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 老年看護学実践論1 老年看護学実践論2 老年看護学実習1 老年看護学実習2 災害看護 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論2 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 老年看護学実践論1 老年看護学実践論2 老年看護学実習1 老年看護学実習2 災害看護 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論2 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 老年看護学実践論1 老年看護学実践論2 老年看護学実習1 老年看護学実習2 災害看護 看護研究1 看護研究2				
専	講師	宮本 恵子 <平成32年4月> 修士(看護学)	専	講師	宮本 恵子 <平成32年4月> 修士(看護学)	専	講師	宮本 恵子 <平成32年4月> 博士(栄養科学)			
	統合看護技術論 統合実習1 統合実習2 統合実習3 国際看護学 国際看護学演習 看護研究1 看護研究2			統合看護技術論 統合実習1 統合実習2 統合実習3 国際看護学 国際看護学演習 看護研究1 看護研究2			統合看護技術論 統合実習1 統合実習2 統合実習3 国際看護学 国際看護学演習 看護研究1 看護研究2				
専	講師	鈴木 里美 <平成32年4月> 修士(看護学)	専	講師	鈴木 里美 <平成32年4月> 修士(看護学)	専	講師	鈴木 里美 <平成31年4月> 修士(看護学)			
	基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 国際看護学 国際看護学演習 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 国際看護学 国際看護学演習 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 国際看護学 国際看護学演習 看護研究1 看護研究2 基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4				
専	助教	大西 幸恵 <平成30年4月> 修士(看護学)	専	助教	大西 幸恵 <平成30年4月> 修士(看護学)	専	助教	大西 幸恵 <平成30年4月> 修士(看護学)			
	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 災害看護 統合看護技術論 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 災害看護 統合看護技術論 看護研究1 看護研究2			基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスアセスメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 災害看護 統合看護技術論 看護研究1 看護研究2				
								大野 美香 <平成31年4月> 修士(看護学)			
								成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3 統合実習3 看護研究1 看護研究2 基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論4 ヘルスアセスメント 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2			
専	助教	小栗 直子 <平成30年4月> 学士(法学)	専	助教	小栗 直子 <平成30年4月> 修士(人間科学)	専	講師	小栗 直子 <平成30年4月> 修士(人間科学)			
	基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3			基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3			基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3 看護研究1 看護研究2				
専	助教	鈴木 孝 <平成30年4月> 修士※(看護学)	専	助教	鈴木 孝 <平成30年4月> 修士※(看護学)	専	助教	鈴木 孝 <平成30年4月> 修士※(看護学)			
	基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2			基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2			基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2				

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名				担当授業科目名	
専 助教	小幡 さつき	<平成30年4月> 修士(看護学)	<平成30年4月> 修士(看護学)	<平成30年4月> 修士(看護学)	<平成30年4月> 修士(看護学)		
		基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実論 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2	基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実論 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2	基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実論 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2	基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 母性看護学実論 母性看護学実践論1 母性看護学実践論2 母性看護学実践論3 母性看護学実習 統合実習3 看護研究1 看護研究2		
専 助教	白砂 恭子	<平成31年4月> 修士(看護学)	<平成31年4月> 修士(看護学)	<平成31年4月> 修士(看護学)	<平成31年4月> 修士(看護学)		
		基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 基礎看護学実習2 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 基礎看護学実習2 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 基礎看護学実習2 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 基礎看護学実習2 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2		
専 助教	横川 美代子	<平成32年4月> 修士(社会学)	<平成32年4月> 修士(社会学)	<平成32年4月> 修士(社会学)	<平成32年4月> 修士(社会学)		
		基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2	基礎看護学技術論1 基礎看護学技術論2 基礎看護学技術論3 基礎看護学技術論4 基礎看護学技術論5 ヘルスケアセメント 看護の展開 基礎看護学実習1 基礎看護学実習2 看護研究1 看護研究2		
専 助教	信組 麻里	<平成32年4月> 修士(人間福祉)	<平成32年4月> 修士(人間福祉)	<平成32年4月> 修士(人間福祉)	<平成32年4月> 修士(人間福祉)		
		成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3 統合実習2 看護研究1 看護研究2	成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3 統合実習2 看護研究1 看護研究2	成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3 統合実習2 看護研究1 看護研究2	成人看護学実践論1 成人看護学実践論2 成人看護学実践論3 成人看護学実践論4 成人看護学実習1 成人看護学実習2 成人看護学実習3 統合実習2 看護研究1 看護研究2		
兼担 教授	井澤 一郎	<平成30年4月> 博士(医学)	<平成30年4月> 博士(医学)	<平成30年4月> 博士(医学)	<平成30年4月> 博士(医学)		
		栄養代謝学	栄養代謝学	栄養代謝学	栄養代謝学		
兼担 教授	加藤 英明	<平成30年4月> 法学修士	<平成30年4月> 法学修士	<平成30年4月> 法学修士	<平成30年4月> 法学修士		
		法と社会 世界の動き	法と社会 世界の動き	法と社会 世界の動き	法と社会 世界の動き		
兼担 教授	正 美智子	<平成30年4月> 体育学士	<平成30年4月> 体育学士	<平成30年4月> 体育学士	<平成30年4月> 体育学士		
		スポーツと健康I(ジャズダンス) スポーツと健康II(ヨガ)	スポーツと健康I(ジャズダンス) スポーツと健康II(ヨガ)	スポーツと健康I(ジャズダンス) スポーツと健康II(ヨガ)	スポーツと健康I(ジャズダンス) スポーツと健康II(ヨガ)		
兼担 教授	田尻 紀子	<平成30年4月> 文学修士	<平成30年4月> 文学修士	<平成30年4月> 文学修士	<平成30年4月> 文学修士		
		演劇の世界	演劇の世界	演劇の世界	演劇の世界		
兼担 准教授	赤嶺 亜紀	<平成30年4月> 博士(文学)	<平成30年4月> 博士(文学)	<平成30年4月> 博士(文学)	<平成30年4月> 博士(文学)		
		心の科学	心の科学	心の科学	心の科学		
兼担 准教授	鈴木 薫	<平成30年4月> 博士(社会福祉学)	<平成30年4月> 博士(社会福祉学)	<平成30年4月> 博士(社会福祉学)	<平成30年4月> 博士(社会福祉学)		
		英米の文学	英米の文学	英米の文学	英米の文学		
兼担 准教授	山本 恭子	<平成30年4月> 修士(数理情報学)	<平成30年4月> 修士(数理情報学)	<平成30年4月> 修士(数理情報学)	<平成30年4月> 修士(数理情報学)		
		情報リテラシー実習 表計算実習 プレゼンテーション実習	情報リテラシー実習 表計算実習 プレゼンテーション実習	情報リテラシー実習 表計算実習 プレゼンテーション実習	情報リテラシー実習 表計算実習 プレゼンテーション実習		
兼担 講師	石原 貴代	<平成30年4月> 修士(教育学)	<平成30年4月> 修士(教育学)	<平成30年4月> 修士(教育学)	<平成30年4月> 修士(教育学)		
		ポランティア演習	ポランティア演習	ポランティア演習	ポランティア演習		
兼担 講師	柿沼 岳志	<平成30年4月> 修士(学術)	<平成30年4月> 修士(学術)	<平成30年4月> 修士(学術)	<平成30年4月> 修士(学術)		
		映画の世界	映画の世界	映画の世界	映画の世界		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
兼任	講師	齊藤 伊都子 <平成30年4月> 専門学校卒	齊藤 伊都子 <平成30年4月> 専門学校卒	齊藤 伊都子 <平成30年4月> 専門学校卒		
		倫理と看護 キャリアデザイン 海外の医療と文化(海外研修)	倫理と看護 キャリアデザイン 海外の医療と文化(海外研修)	倫理と看護 キャリアデザイン		
兼任	講師	坂 英雄 <平成30年9月> 学士(医学)	坂 英雄 <平成30年9月> 学士(医学)	坂 英雄 <平成30年9月> 学士(医学)		
		病態治療学2	病態治療学2	病態治療学2		
兼任	講師	佐藤 智太郎 <平成30年9月> 博士(医学)	佐藤 智太郎 <平成30年9月> 博士(医学)	佐藤 智太郎 <平成30年9月> 博士(医学)		
		病態治療学4	病態治療学4	病態治療学4		
兼任	講師	島田 昌明 <平成30年9月> 学士(医学)	島田 昌明 <平成30年9月> 学士(医学)	島田 昌明 <平成30年9月> 学士(医学)		
		病態治療学3	病態治療学3	病態治療学3		
兼任	講師	白井 直洋 <平成31年4月> 薬学博士	白井 直洋 <平成31年4月> 薬学博士	白井 直洋 <平成31年4月> 薬学博士		
		薬理学	薬理学	薬理学		
兼任	講師	瀬藤 千恵美 <平成32年4月> 修士※(学術)	瀬藤 千恵美 <平成32年4月> 修士※(学術)	瀬藤 千恵美 <平成32年4月> 修士※(学術)		
		ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅰ ポルトガル語Ⅱ		
兼任	講師	立花 みどり <平成30年4月> 文学士	立花 みどり <平成30年4月> 文学士	立花 みどり <平成30年4月> 文学士		
		英語コミュニケーションA 英語コミュニケーションB 英語論文講読A 英語論文講読B 臨床看護英語A 臨床看護英語B	英語コミュニケーションA 英語コミュニケーションB 英語論文講読A 英語論文講読B 臨床看護英語A 臨床看護英語B	英語コミュニケーションA 英語コミュニケーションB 英語論文講読A 英語論文講読B 臨床看護英語A 臨床看護英語B		
兼任	講師	パコ ジェローム ヴァンサン ジョセフ PACCOUQ Jerome Vincent Joseph <平成32年4月> Maîtrise de Lettres et Langues (仏)	パコ ジェローム ヴァンサン ジョセフ PACCOUQ Jerome Vincent Joseph <平成32年4月> Maîtrise de Lettres et Langues (仏)	パコ ジェローム ヴァンサン ジョセフ PACCOUQ Jerome Vincent Joseph <平成32年4月> Maîtrise de Lettres et Langues (仏)		
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		
兼任	講師	蜂須賀 太郎 <平成33年4月> 法学士	蜂須賀 太郎 <平成33年4月> 法学士	蜂須賀 太郎 <平成33年4月> 法学士		
		関係法規	関係法規	関係法規		
兼任	講師	服部 周子 <平成30年9月> 教員学士				
		専門基礎入門4(看護と統計)				
兼任	講師	福田 真人 <平成30年4月> 博士(学術)	福田 真人 <平成30年4月> 博士(学術)	福田 真人 <平成30年4月> 博士(学術)		
		医学の歴史 社会保障制度	医学の歴史 社会保障制度	医学の歴史 社会保障制度		
			藤吉 行雄 <平成30年4月> 医学博士	藤吉 行雄 <平成30年4月> 医学博士		
			病理学	病理学		
兼任	講師	水野 慎士 <平成30年4月> 博士(工学)	水野 慎士 <平成30年4月> 博士(工学)	水野 慎士 <平成30年4月> 博士(工学)		
		専門基礎入門3(看護と物理)	専門基礎入門3(看護と物理)	専門基礎入門3(看護と物理)		
兼任	講師	李 萍 <平成32年4月> 修士(学術)	李 萍 <平成32年4月> 修士(学術)	李 萍 <平成32年4月> 修士(学術)		
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		
兼任	講師	渡邊 智之 <平成31年9月> 博士(医学)	渡邊 智之 <平成31年9月> 博士(医学)			
		公衆衛生学	公衆衛生学			

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任・兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**置可時又は届出時から重要となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・永井邦芳准教授、保有学位の変更。修士※(看護学)から博士(看護学)
- ・小栗直子助教、保有学位の変更。学士(法学)から修士(人間科学)
- ・加藤英明教授(兼任)、正美智子教授(兼任)について、退職により兼任講師に変更。
- ・赤嶺亜紀准教授(兼任)、鈴木薫准教授(兼任)について、教授に昇任のため職位の変更。
- ・早戸亮太郎講師(兼任)、日暮(堺)陽子講師(兼任)について、准教授に昇任のため職位の変更。
- ・岡田久講師(兼任)就任辞退により、伊藤洋人講師(兼任)に変更。
- ・服部周子講師(兼任)就任辞退により、神頭和子講師(兼任)に変更。
- ・黒田美保講師(兼任)、就任のため教授(兼任)に変更。
- ・市原周講師(兼任)就任辞退により、藤吉行雄講師(兼任)に変更。

【令和元年度】

- ・岩瀬信夫教授科目追加。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・永井邦芳准教授、教授に昇任のため職位の変更。科目追加。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・宮本恵子講師、保有学位の変更。修士(看護学)から博士(栄養科学)
- ・鈴木里美講師の就任年度を平成32年4月から平成31年4月へ変更。科目追加。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・小栗直子助教、講師に昇任のため職位の変更。科目追加。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・白砂恭子助教科目追加。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・大野美香助教就任。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・駒野淳講師(兼任)就任辞退により、青山温子教授(兼任)に変更。
- ・時間割編成上の都合により、天野美鈴講師(兼任)の一部科目を岩瀬信夫教授に変更。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・金田宗久講師(兼任)辞退により、岩瀬信夫教授に変更。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・時間割編成上の都合により、齋藤伊都子講師(兼任)の一部科目を、青山温子教授(兼任)に変更。
- ・渡邊智之講師(兼任)就任辞退により、青山温子教授(兼任)に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **既に設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
11	5	4	7	27	12	3	4	5	24
(9)	(1)	(2)	(4)	(16)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
12	4	5	7	28	12	4	5	7	28
[1]	[Δ1]	[1]	[]	[1]	[1]	[Δ1]	[1]	[]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	9 名	10 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{27} = \boxed{103.7} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{9}{24} = \boxed{37.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{27} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設 置 時 (平成30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	<p>・ 定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえつつ適切な教員組織の編制に努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p> <p>・ 平成29年6月提出の補正申請時に教員の年齢構成についての将来構想で示した10年間の将来計画の通り、本年度40代の助手(大野美香)を助教へ昇任させ、年齢構成の改善を図った。また、50代准教授就任予定者(永井邦芳)を教授へ昇任させ、認可時に口頭で指摘のあった教授の平均年齢についても改善した。いずれも附帯事項に対応する設置計画履行状況となっている。平成30年12月AC教員審査済み。</p>	<p>履行中</p> <p>・ 今回附帯事項として指摘のあった事柄については、完成年度に向けて策定し、補正申請において提出した人事計画に沿って、退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、今後も定年規程の趣旨を踏まえつつ適切な教員組織の編制とする計画である。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学全体の該当する委員会・・・FD推進委員会 ・学部単位の該当する委員会・・・学部FD推進委員会 ・学外連携の該当する委員会・・・名古屋医療センター連絡協議会 <p>上記の通り、教職員の資質維持向上に資する方策としての委員会等の設置については、大きく大学全体、学部単位、学外連携による3部門から構成される。これらの委員会等が相互に関連し、体系的にFD・SD活動に取り組んでいる。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>上記3つ委員会等のうち、FD推進委員会及び学部FD推進委員会月1回開催する。また、名古屋医療センター連絡協議会は開催して年3回開催している。なお、委員会及び協議会の構成員は添付の規程通りで、各委員は欠席することなく参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教育の高度化を図りつつ、SDを含む教職員の資質向上に繋ぐべく、相互に関わる職務分掌の実効性ある運営を図ることとしている。各委員会及び協議会において、それぞれ規程が整備され、審議内容は明確化されている。なお、看護学部に関連してFD委員会が主体となって開催した研修等は実施状況に記載の通りである。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>大学及び看護学部のFD推進委員会が企画、実施した具体的なFD・SD活動は以下の通りである。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>①「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修(前)</td> <td>2018年4月19日</td> <td>学部教員全員参加</td> </tr> <tr> <td>②「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修(後)</td> <td>2018年6月28日</td> <td>学部教員全員参加</td> </tr> <tr> <td>③ 海外危機管理セミナー(看護学部は2018年夏季海外研修実施)</td> <td>2018年10月1日</td> <td>学部教職員全員参加</td> </tr> <tr> <td>④ FD研修会「効果的なシラバスとその作成について」</td> <td>2018年12月20日</td> <td>学部教職員全員参加</td> </tr> <tr> <td>⑤ FD講演会「教育機関における著作権法改正について」</td> <td>2018年12月20日</td> <td>学部教職員自由参加</td> </tr> <tr> <td>⑥ 教育シンポジウム「学生の意欲を向上させる大学教育とは」</td> <td>2019年2月28日</td> <td>学部教職員全員参加</td> </tr> <tr> <td>⑦ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について</td> <td>2018年6月14日</td> <td>規程選出構成員</td> </tr> <tr> <td>⑧ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について</td> <td>2018年11月27日</td> <td>規程選出構成員</td> </tr> <tr> <td>⑨ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について</td> <td>2019年3月12日</td> <td>規程選出構成員</td> </tr> </tbody> </table> <p>a 実施方法</p> <p>大学評議会を軸に、学部教授会～学部FD推進委員会までの機関決定を経て、教職員に周知徹底を図っている。また、名古屋医療センターとの連絡協議会においては、多様な議題の一つに毎回臨地実習に関する実習先の要望、今後の在り方について議案として協議し、その結果を学部教授会、学部FD推進委員会等で情報共有しながら、教員の資質向上、臨地実習の内容充実、改善に繋げるFDの一環として位置付けている。</p> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>開催状況はaの実施内容に記載した通りである。なお、学部教職員全員参加の際は、出欠を取っている。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>上記の実施内容を踏まえ、学部教授会、学部教務委員会、学部FD推進委員会等において、学部長を中心に看護学部として教員の資質向上、効果的な教育方法の在り方を検討し、自己点検・評価を行うこととしている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>学生に対するアンケート等は、次の5つの調査を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新入生状況調査(毎年4月) ② 学生受講結果アンケート(毎年7月) ③ 学習状況調査(毎年9月) ④ 卒業時満足度調査(卒業時) ⑤ 学生意見箱(随時) 	①「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修(前)	2018年4月19日	学部教員全員参加	②「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修(後)	2018年6月28日	学部教員全員参加	③ 海外危機管理セミナー(看護学部は2018年夏季海外研修実施)	2018年10月1日	学部教職員全員参加	④ FD研修会「効果的なシラバスとその作成について」	2018年12月20日	学部教職員全員参加	⑤ FD講演会「教育機関における著作権法改正について」	2018年12月20日	学部教職員自由参加	⑥ 教育シンポジウム「学生の意欲を向上させる大学教育とは」	2019年2月28日	学部教職員全員参加	⑦ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について	2018年6月14日	規程選出構成員	⑧ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について	2018年11月27日	規程選出構成員	⑨ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について	2019年3月12日	規程選出構成員
①「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修(前)	2018年4月19日	学部教員全員参加																									
②「看護の基礎」におけるアクティブラーニング実施のための教員研修(後)	2018年6月28日	学部教員全員参加																									
③ 海外危機管理セミナー(看護学部は2018年夏季海外研修実施)	2018年10月1日	学部教職員全員参加																									
④ FD研修会「効果的なシラバスとその作成について」	2018年12月20日	学部教職員全員参加																									
⑤ FD講演会「教育機関における著作権法改正について」	2018年12月20日	学部教職員自由参加																									
⑥ 教育シンポジウム「学生の意欲を向上させる大学教育とは」	2019年2月28日	学部教職員全員参加																									
⑦ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について	2018年6月14日	規程選出構成員																									
⑧ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について	2018年11月27日	規程選出構成員																									
⑨ 名古屋医療センター連絡協議会 臨地実習の在り方について	2019年3月12日	規程選出構成員																									

b 教員や学生への公開状況、方法等

上記の5つの調査は以下の通り公表している。

① 新入生状況調査・・・教職員

② 学生受講結果アンケート・・・まとめとして総括を大学Webで公開、詳細は教職員に公開、共有

③ 学習状況調査(毎年9月)・・・教職員に公開、共有

④ 卒業時満足度調査(卒業時)・・・教職員 看護学部は学年進行中のため実施していない

⑤ 学生意見箱(随時)・・・寄せられた意見への対応も含め、教職員には教授会等で公開、共有し、学生に掲示で公表

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

名古屋学芸大学の自己点検・評価においては、大きく、「使命・目的等」「学修と教授」「経営・管理と財務」「自己点検・評価」「社会貢献」の5項目に区分して行っている。看護学部においては開設1年後の学年進行中であり、特に使命・目的等の再確認と完成年度までの学修と教授の在り方について重点的な評価項目に掲げ、自己点検・評価を実施している。看護学部における自己点検・評価委員会は前期終了時、後期終了時に開催している。

② 自己点検・評価報告書

看護学部の自己点検・評価報告書については、完成中間年度の2年を経過したのち、作成する予定であり、完成年度後に、既設学部と同様の形式で4年間の総括を含めた報告書を作成し、大学Web上に公開する予定である。

a 公表(予定)時期

完成年度後の2021年5月頃、公表予定。

b 公表方法

大学Web上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

名古屋学芸大学は、前回、平成28(2016)年度に日本高等教育評価機構による「大学機関別認証評価」を受審している。定期的な受審を図ることにしている。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和元年度)

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表(予定)時期 (2019年 6月 1日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。